

## 自己点検・自己評価

本学院の自己点検・評価については、以下のとおりです。

点検・評価項目	評価	実施時期及び方法、実施体制
<p>◆学校運営</p> <p>1. 理念・教育目標は定められている。</p> <p>2. 運営方針は定められている。</p> <p>3. 事業計画は定められている。</p>	<p>1. A B C</p> <p>2. A B C</p> <p>3. A B C</p>	<p>&lt;理念・教育目標&gt;</p> <p>本校の理念では、「学生の意欲・関心と自主性を尊重すること」と「進路指導を充実させること」を教育の基盤に据える。また、日本が構築してきた技術・文化・政治その他諸々な事を世界各国の人々が正しく理解するためには、「日本語の力」が基礎になる。この力を育成するための機関として「新時代のニーズに応えるため常に進化し続ける日本語学校」を教育目標として以下のような具体的な教育目標のもと学校を経営する。</p> <p>教育目標としては、①国際社会で活躍できる人材を育成する。②個々の特性に応じた進路を意欲的に選択できる学生を育成する。③日本語及び日本の文化・歴史・習慣をより深く習得できる学生を育成する。</p> <p>当校の運営方針は毎年策定される事業計画のなかで位置づけられている。事業計画は教職員が自立的に策定し、学校運営会議の審議を経て決定する。事業計画には、数的目標と質的目標を定める。これらの目標達成のために、組織体制、職務分掌、スケジュール等具体的な事項を実行計画として策定し、教育活動を展開する。学校組織においては、運営会議、教務会議、広報会議、校務会議等を通じてそれぞれの角度から、客観的に教育活動の目標達成のために評価・審議を行いながら学校運営に</p>

		取り組む。
◆入学者の募集		募集活動は、法務省による告示基準に従って、適正な情報を満たす募集要項、留学に伴う支払う経費、選考方法、納付金などのパンフレットを作成し、留学生仲介機関等に不定期的に送付する。また、各国において、募集説明会を実施する。学生選考は、学校の教育理念を理解し、勉強意欲が強く、日本語学習に対して明確な目標をもつ学生を世界の様々な地域から受け入れる。学生選考は、現地に赴いての学科試験（日本語能力試験、英語、数学）と面接試験（保護者が同席の面接）を行い、必ず学校職員が行う。選考方法は履歴書、留学理由書、住民登録、戸籍謄本、学校の成績、経費支弁者の経済能力確認などの書類審査を実施し、総合判定により選考する。 学費等学校で必要な費用および返金規定については学則や募集要項に明示する。
1. 学生の受け入れ方針は定められている。	1. A B C	
2. 学生募集活動は、適正に行われている。	2. A B C	
◆入学者の選考		
1. 入学者の選考に関して、学習能力、勉強意欲、経費支弁能力、日本語能力等について根拠資料で確認する等、適切な方法により行っている。	1. A B C	
2. 入学者の選考に当たっては、学校関係者（職員等）が面接を行うように努めている。	2. A B C	
◆納付金		
1. 入学検定料、入学金、授業料その他納付金の金額、納付時期、納付方法、及び学費以外に入学後必要な費用を募集要項等に明記している。	1. A B C	
2. 関係諸法令に基づいた学費返還規程を定め公開している。	2. A B C	
◆学生支援		新入生に関しては、入学後1か月間の目処に新入生全員の胸部レントゲ

<p>1. 進路指導を適切に行っている。</p> <p>2. 交通事故等の相談体制が整備されている。</p> <p>3. 学生寮等、学生の生活環境への支援を行っている。</p> <p>4. アルバイトに関する指導及び支援を行っている。</p> <p>5. 学生全体の生活状況について、定期的に調査している。</p>	<p>1. A B C</p> <p>2. A B C</p> <p>3. A B C</p> <p>4. A B C</p> <p>5. A B C</p>	<p>ン撮影などの健康診断を行う。学校教職員が二次検診まで受診できるようにサポートする。また、健康管理、自己管理、怪我、事故、病気面において、何か起こってからではなく未然に防ぐために学生指導を毎月に行う。学生寮など学生の生活環境について、1か月に一度寮を訪問し、設備の不具合のチェックや生活相談を行い、全面的に学生をサポートする。</p> <p>経済面のサポートとしては、アルバイト指導として面接の練習や履歴書の書き方指導を定期的実施する。</p> <p>卒業後の進路指導においては、年間の進路指導計画に沿って、進路相談週間・進学説明会・個人懇談などを設定する。</p>
<p>◆在籍管理と生活指導</p>		
<p>1. 日本社会を理解し、適応するためのオリエンテーションを実施している。</p> <p>2. 入管法上の留意点について、管理・指導等を定期的に行っている。</p> <p>3. 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている。</p> <p>4. 常に最新の学生情報を把握している。</p> <p>5. 保護者と適切に連携している。</p>	<p>1. A B C</p> <p>2. A B C</p> <p>3. A B C</p> <p>4. A B C</p> <p>5. A B C</p>	<p>入学時、各国語によるオリエンテーションを実施して、在留関係等の入管法、日本社会への理解など留学生活に支障がないようサポートする。</p> <p>3か月に一度実施する「学生個人情報調査」で留学生の生活の実態の最新情報を把握し、不法残留・不法就労者を出さないよう管理する。</p> <p>保護者との連携においては、SNSを通じて個々の学生の成績結果、出席様子を毎月発信する。</p>
<p>◆教職員</p>		
<p>校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定め、教</p>		

<p>1. 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容を明確に定めている。</p> <p>2. 教職員の教育力及び支援力強化のための研修等を実施する。</p> <p>3. 教職員評価を適切に行っている。</p>	<p>1. A B C</p> <p>2. A B C</p> <p>3. A B C</p>	<p>職員の教育力及び支援力強化のために、毎月の定例職員研修会や長期休業中のテーマ別研修会及び授業研究会など教職員研修会を確実に実施する。教職員評価については、事業計画に基づき、個人目標管理を行う。業務目標と自己啓発目標を4月初めに本人が設定し、年度末に達成状況等自己評価を申告し、業務実績・能力・意欲について評価をする。学校の組織的運営を定着させ、その中で、校務分掌の実践、新しい教材の開発や選定、カリキュラムの修正・立案、学習評価などについて検討し、P・D・S・A（計画・実行・評価・改善）のサイクルでより質の高い教育を進めていく。</p>
<p>◆教育活動</p>		
<p>1. 理念・教育目標に合致したコースを設定し、カリキュラムを体系的に編成している。</p> <p>2. 授業開始前までに学習者の日本語能力を試験等で判定し、適切なクラス編成を行っている。</p> <p>3. 教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。</p> <p>4. 授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している。</p> <p>5. 定期的に試験を実施し、成績判定結果を的確に学生に伝えている。</p> <p>6. 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制が整っている。</p>	<p>1. A B C</p> <p>2. A B C</p> <p>3. A B C</p> <p>4. A B C</p> <p>5. A B C</p> <p>6. A B C</p>	<p>全職員が毎年新たな事業計画策定に携わることで、理念、目標等共有する。国籍の多様化において、入学時に、日本語能力の筆記試験とインタビューにより、学生一人一人のレベルを確認し、初級から上級クラスまで学習者レベルに適合したクラスを編成する。また、教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をする。学生管理が一人一人行き届くように、出席簿、授業記録、定期的な試験の実施など適切に改定を行い、実施する。また、教育の質を向上させるために、学校自身の自己評価や外部評価を積極的に取り入れ、N2、N1の取得を目指す。</p>
<p>◆教育施設</p>		
<p>教育施設については、定期点検をおこなう。</p>		

1. 教室には十分な照明があり換気がなされていると共に、語学教育に必要な遮音がなされている。	1. A B C	快適な学習環境の整備につとめる。
2. 授業自習以外に自習できる環境の確保に努めている。	2. A B C	
3. 法令上必要な設備等を備えている。	3. A B C	
<b>◆安全・危機管理</b>		入学時に学生全員が国民健康保険に加入の指導や結核発生時の対応などを徹底する。 本校は学生が防災意識を高めるよう、年1回の避難訓練を実施する。
1. 対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	1. A B C	
2. 避難訓練等の危機管理体制が整備されている。	2. A B C	
<b>◆法令の遵守</b>		日本語学校として、日本の法令・設置基準等の遵守と適正に行う。個人情報保護においては管理体制を整備する。教職員への研修を実施し、個人情報保護の取扱い規約に関する誓約書の提出を求め、個人情報保護に関して徹底を行う。
1. 法令・設置基準等の遵守と適正に行っている。	1. A B C	
2. 個人情報に関し、その保護のための対策をとっている。	2. A B C	
<b>◆社会貢献</b>		地域住民と国際交流を促すために、地域祭りへの参加、毎年の学園祭、餅つき、茶道、習字、七夕会、料理教室などを実施する。学校全員による学校周辺の清掃など年間を通して実施する。学生が地域清掃することによって、地域の方々の留学生を理解するための活動を積極的に実施する。
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会活動を行っている。	1. A B C	
2. 学生のボランティア活動を奨励・支援している。	2. A B C	
3. 地域交流や地域活動に参加している。	3. A B C	

評価方法：

A: 「達成している」あるいは「適合している」項目。

B: 「一部未達成」であるが、一年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。

C: 「未達成」あるいは「適合していない」項目。

評価委員会構成メンバー：

理事長 鶴石 蘭

校長 藤野 重雄

主任 多田 真由美

責任者：

校長 藤野 重雄